

業務名	業種・事業名	管理者の情報	自己資本構成比率（％）
法非適用	電気事業	非設置	該当数値なし
水力発電所数	ごみ発電所数	風力発電所数	太陽光発電所数
1	-	-	5
その他発電所数	料金契約終了年月日	F I T ・ F I P 適用終了年月日	電力小売事業実施の有無
-	令和7年3月31日 富士見図書館太陽光発電	令和10年6月19日 富士見図書館太陽光発電	無
売電先	地産地消の見える化率（％）※1		
東京電力パワーグリッド株式会社、東京電力エナジーパートナー株式会社	-		

※1 行政区域内の需要家に小売されたことが客観的に明らかであるものを計上。なお、この基本情報をもって全ての地産地消エネルギーへの取り組みを評価するものではない。

年間発電電力量（MWh）	R02	R03	R04	R05	R06
水力発電	1,065	1,063	1,177	862	973
ごみ発電	-	-	-	-	-
風力発電	-	-	-	-	-
太陽光発電	2,726	2,940	2,341	2,045	2,343
合計	3,791	4,003	3,518	2,907	3,316

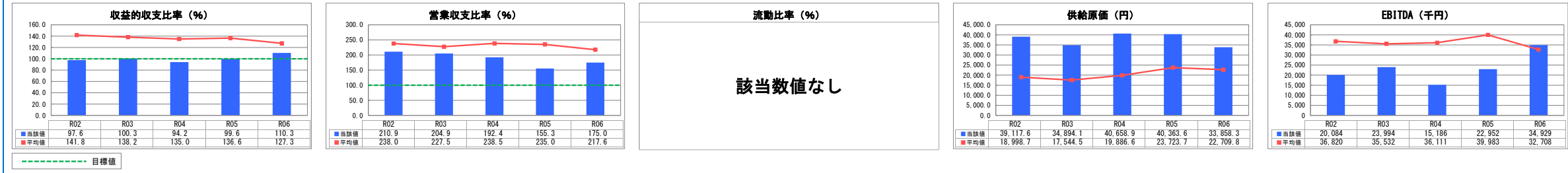
	F I T ・ F I P 以外	F I T ・ F I P	合計
年間電灯電力料収入（千円）	-	113,709	113,709

経営比較分析表（令和6年度決算）

剰余金の使途について（具体的な使用実績事業を記入してください）	
剰余金 16,760千円	は次年度へ繰越（26-02-08）
（参考）	
基金への積立の有無…無	
一般会計への繰出しの有無…有	
目的：環境対策事業（絆でつなぐ環境基金積立金） 12,775千円	
小学校運営事業 375千円	
支所運営事業 377千円	
合計 13,527千円（26-01-21の内数）	
電気事業により生じた利益は、将来の施設更新に充てることが及び省エネ対策等のために一般会計へ繰り出し、絆でつなぐ環境基金に積み立てを実施している。また、屋根に太陽光がある小学校、支所においては利益の一部を運営費用に充てている。なお、残額がある場合には、次年度への繰越金として活用している。今後も事業運営に必要な財源を確保しつつ、一般会計への繰り出しを通じて住民の福祉の向上に努めていきたい。	

1. 経営の状況について
本市の電気事業は、FIT制度（発電した電気を20年間固定価格で買い取る制度）を活用し、事業期間全体の収支を試算したうえで実施していることから、将来的にも安定した経営が見込まれる。
【収益的収支比率】 算定式の分母となる「総費用」には一般会計への繰出金（会計全体の利益を繰出し、基金に積み立てているもの）を含んでいるものの、概ね100%前後で推移している。令和6年度は110.3%となり、2年ぶりに100%を超える黒字となったため、健全な経営が行えているといえる。今後も安定した売電収入を確保できるよう、機器の点検などの適切な維持管理を継続していく必要がある。
【営業収支比率】 令和5年度の155%に対し、令和6年度は175%となり、黒字幅がさらに拡大した。直近5年間では、いずれも100%を上回り、売電により安定した収入が継続して確保され、堅調に推移している。日射量や降水量により若干の変動はあるものの、健全な経営状態が維持されている。
【供給原価】 委託料値上げやパワーコンディショナーの故障、日射量や降水量などの要因があったにもかかわらず、前年度と比較して供給原価が約6,500円低下した。設備点検や運転管理が適切に行われ、不要な費用を抑えられたためと考えられる。
【EBITDA】 総費用には会計全体の収益を示す「一般会計繰出金（会計全体の利益を繰出ししているもの）」を含んでいるものの、前年度と比較して上昇し、改善がみられた。全国平均（32,708千円）を上回っている点からも、事業運営の健全性が確保されているといえる。

1. 経営の状況

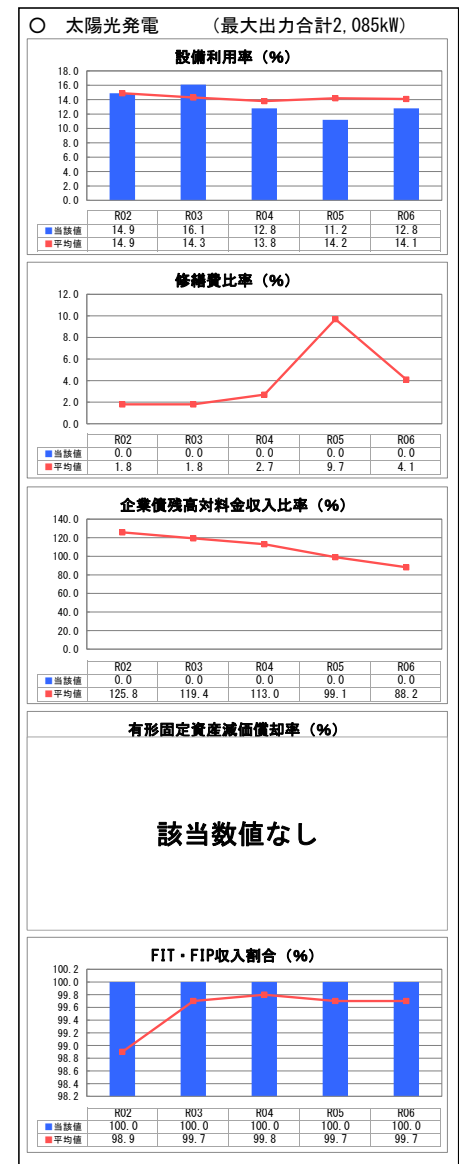
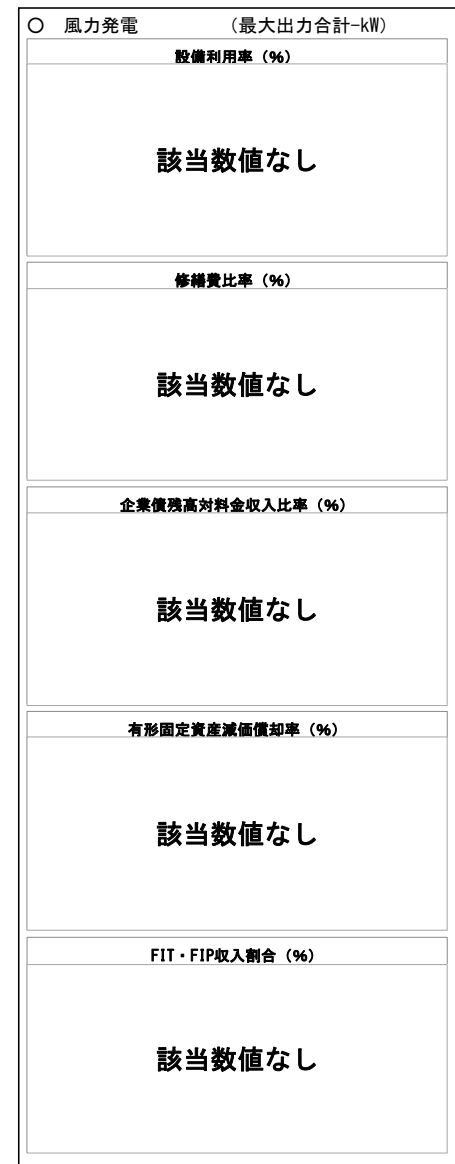
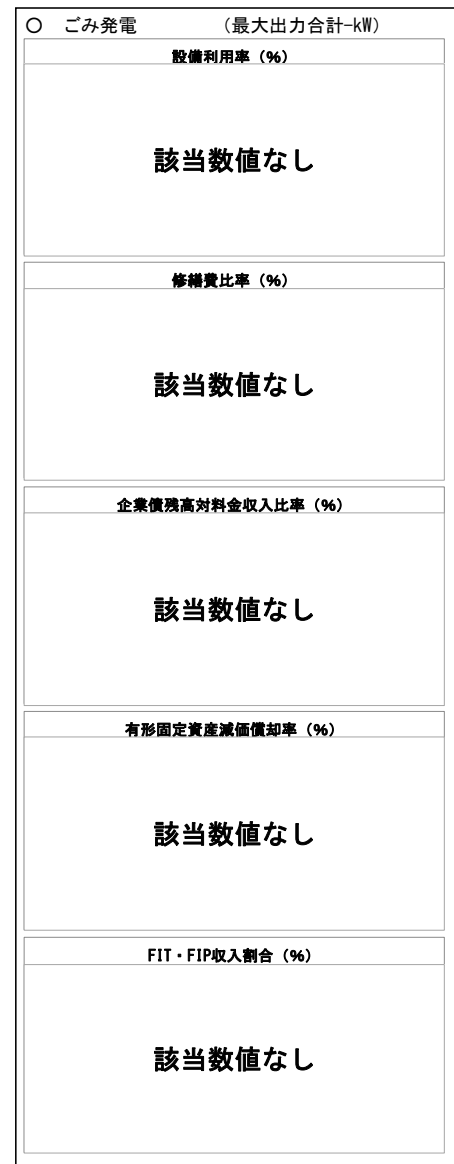


2. 経営のリスク

●施設全体



●発電型式別



※ 令和2年度から令和6年度における各指標の全国平均値は、当時の団体数を基に算出していますが、設備利用率及び修繕費比率、企業債残高対料金収入比率、FIT・FIP収入割合については、令和6年度の団体数を基に平均値を算出しています。